

The background of the slide is a reproduction of Leonardo da Vinci's 'The Last Supper' fresco. It depicts Jesus Christ and his twelve apostles seated around a long table in a room with a grid-patterned ceiling and several windows. The figures are shown in various states of emotional distress and conversation.

西洋美術史ゼミ

第19回

コンセプチュアル・アートから現代まで

発表者 あまずん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

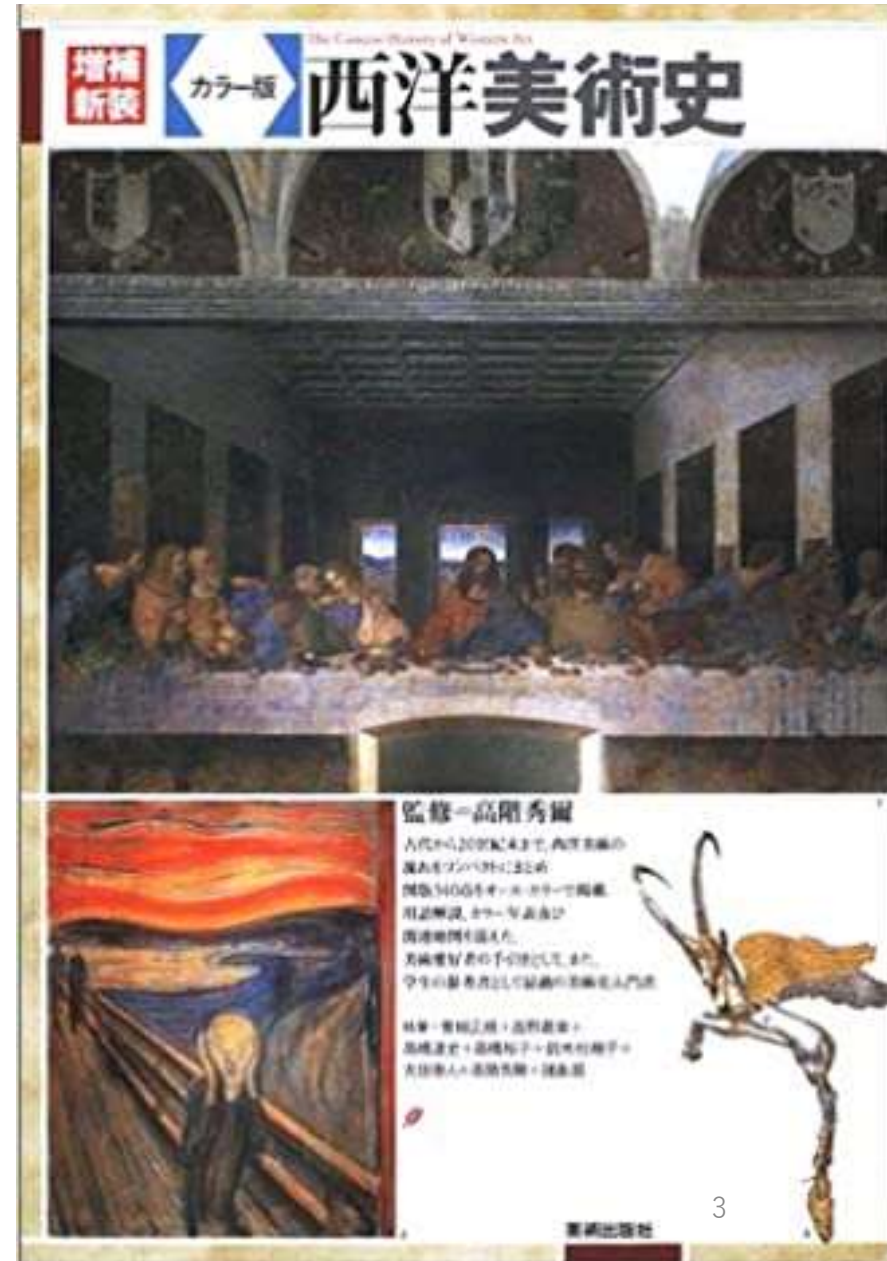
理系の大学生 (数学科) です。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について
興味があります。



ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



前回の内容

- **冷戦**が起こり、世界は東西に分かれた。緊張は長く続いたものの、89年とうとう終結した。また、この動きの中で**第三世界**が台頭した。
- 戦後のアメリカでは**オールオーバー**な画面が特徴である**抽象表現主義**が生まれ、またこの潮流への反抗として**大衆的なモチーフ**を用いた**ポップ・アート**が生まれた。
- 他にも**ハプニング**や**ミニマル・アート**、**ニューヴォー・リアリズム**など様々な潮流が生まれた。



By Roy Lichtenstein -
<http://www.lichtensteinfoundation.org/0117.htm>, Fair use,
<https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=5673384>

リキテンスタイン 《溺れる女》

本日の内容

美術について

- コンセプチュアル・アート
- シュポール／シュルファス
- アルテ・ポーヴェラ
- もの派・具体
- アース・ワーク
- 新表現主義
- メディアの多様化
- アプロプリエーション

全体の概略

- 今回はおおよそ冷戦終結までの美術を扱うため、世界史は無しで美術史のみを扱います。
- ポップ・アートまでの芸術はモダニズムに分類されるが、60年代からは**ポストモダン・アート**へと移行していく。モダニズムの継承と批判から、**コンセプチュアル・アート**や**インスタレーション**、複数のメディアの組み合わせ（**インターメディア**）、**アプロプリエーション**などの新しい手法が使われるようになる。そして、その観念性への反発から具象絵画が復権し、この運動は**新表現主義**と呼ばれる。

本日の内容

- **美術史：コンセプチュアル・アート**
- 美術史：シュポール／シュルファスとアルテ・ポーヴェラ
- 美術史：アース・ワーク
- 美術史：新表現主義
- 美術史：メディアの多様化
- 美術史：アプロプリエーション
- 美術史：マルチカルチュラルリズム
- 美術史：21世紀の美術

コンセプチュアル・アート(1)

- 抽象表現主義からネオダダやポップアート、ミニマル・アートを経て、60年代後半に**コンセプチュアル・アート**が台頭した。
- この運動は、諸運動を通じて高まっていた美術の観念性を極端に推しだし、**観念こそを作品とした**。



By Tony Godfrey, Conceptual Art, London: 1998, Fair use,
<https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=6981637>

コース 《1つおよび3つの椅子》

コンセプチュアル・アート(2)

- **ジョセフ・コースス**は、『**1つおよび3つの椅子**』において本物の椅子、その写真、辞書の「椅子」の項目を並置し、椅子の概念自体を提示して芸術とは何かを問うた。
- また、**河原温**も有名である。彼は制作日をキャンバスに書き入れその日のうちに完成させる『**日付絵画**』シリーズの制作や、世界各地から電報を送る『**I Am Still Alive**』という実践を行った。



OCT.31.1978

By Amerique - self-made photo taken at Chicago Art Institute,
Fair use,
<https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=22842199>

河原温 《日付絵画》

コンセプチュアル・アート(3)

- フルクサスの一員であり、ジョン・レノンのパートナーでもある**オノ・ヨーコ**もパフォーマンスや観念的な作品で知られており、コンセプチュアル・アートの先駆者とされている。
- 観客が彼女の衣装をハサミで切り取る『**カット・ピース**』というパフォーマンスや、鑑賞者が書かれた命令文を読み、想像することを作品とした『**グレープフルーツ**』というアーティスト・ブックで知られる。



By Yes. Yoko Ono, Harry Abrams 2000, p83, Fair use, <https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=19480083>

オノ・ヨーコ 《グレープフルーツ》

スーパーリアリズム(1)

- 同時代のコンセプチュアルな試みとして**スーパーリアリズム**がある。
- **チャック・クロース**や**リチャード・エステス**が主要な作家だが、彼らは**機械的な手法を用いてキャンバスに写真を転写**した。主題はありきたりな都市風景が多い。
- この手法の結果として、絵画は**写真の平面性を再現**し、また感情を排したものとなるが、この様式はポップアートやミニマリズムと理念を共有している。



By Digital photographs by User:Postdlf, 11-11-06; derivative rights in photograph to the left licensed under the terms of the GFDL., CC BY-SA 3.0, <https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=7928007>

クロース 《Mark》

スーパーリアリズム(2)



Fair use, <https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=15172129>

エステス 《Telephone Booths》



埼玉県立近代美術館. 「上田薫」. https://pref.spec.ed.jp/momas/ueda_kaoru (参照: 2022年8月25日)

上田薫 《ジェリーにスプーン C》

(注：上田薫は日本のスーパーリアリズムの第一人者だが西洋美術の文脈からは離れており、筆を用いて作品制作をしている。)

本日の内容

- 美術史：コンセプチュアル・アート
- **美術史：シュポール／シュルファスとアルテ・ポーヴェラ**
- 美術史：アース・ワーク
- 美術史：新表現主義
- 美術史：メディアの多様化
- 美術史：アプロプリエーション
- 美術史：マルチカルチュラルリズム
- 美術史：21世紀の美術

シュポール／シュルファス

- **絵画による絵画の自己批評**という点で、もっとも先鋭的な実験を行ったのは南フランスの**シュポール／シュルファス**（支持体／表面、Supports/Surfaces）である。
- この運動は**実験的な作品**により特徴づけられる。**キャンバスの枠木からの解放**や、**肉体労働を思わせるスポンジを押し付ける単純な反復作業**などにより、タブロー（持ち運び可能な媒体に描かれた絵）が備える物質的・形式的な属性を脱構築し、絵画というジャンルを考察した。



By CeyssonBenetiereUS - Own work, CC BY-SA 4.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=73382138>

シュポール／シュルファスの作品群

アルテ・ポーヴェラ

- 「**貧しい芸術**」を意味する**アルテ・ポーヴェラ**の運動は1960年代後半にイタリアで成立した。これはシュポール／シュルファスや後述するもの派と関連して論じられる。
- 「**貧しい**」とは「**捨てるも惜しくない日常的な事物**」のことを意味する。この運動の作家は絵の具や粘土、ブロンズなど**伝統的な美術の画材を放棄**して、**自然物や工業製品を身の回り**にあるものを**それほど加工せずに**（**素材のままで!**）**提示**し、美術の枠組みの**変革**を迫った。



マリオ・メルツ 《Igloo di pietra》

もの派(1)

- 同時代の日本の運動である**もの派**はシュポール／シュルファスやアルテ・ポーヴェラとの類似を指摘されることが多い。
- もの派の作家は**石、木、紙**のような「**もの**」をほぼ加工せずに展示し、これによって過度に観念的であった当時の美術を批判し、「**あるがまま**」の世界を感性的に受容する（「**出会う**」）ことを志向しました。
- **関根伸夫**や**李禹煥**、**菅木志雄**が有名である。



Nobuo Sekine - 投稿者自身による著作物, CC 表示-継承 4.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=40068012>による

関根 《位相-大地》

もの派(2)



TOKYO ART BEAT. 「「もの派」を代表する作家、李禹煥の待望の大回顧展」. https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/lee_ufan_national_art_center_tokyo-report-2022-08 (参照: 2022年8月30日)

李禹煥 《現象と知覚B 改題 関係項》



TOMIO KOYAMA GALLERY. 「菅 木志雄 Kishio Suga」. <http://tomiokoyamagallery.com/artists/kishio-suga/> (参照: 2022年8月30日)

菅木志雄 《識況》

具体(1)

- もの派と関連して、戦後日本現代美術においてもの派と共に二大潮流として扱われる**具体**（**具体美術協会**）について記す。
- この二つの運動は近年再評価がなされており、去年にはMoMAの常設展示にも加わった。



Casa. 「抽象画家・白髪一雄、その全容に迫る。」
<https://casabrutus.com/posts/128366> (参照:
2022年8月30日)

白髪一雄 《無題》

具体(2)

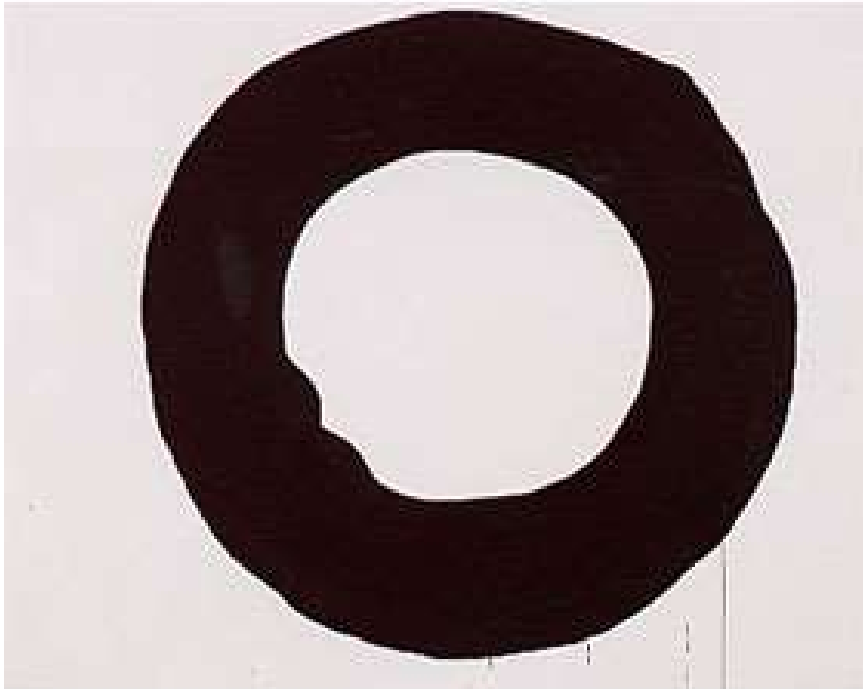
- 具体の際立った特徴は二つあり、それは**オリジナリティの追求**と**グローバルへの意識**である。
- 前者については、泥の中に飛び込みもがく**白髪一雄『泥に挑む』**などがよく知られており、後者はアンフォルメルとの接触や、機関紙の英語併記などがあった。この結果、彼らは絵画、パフォーマンス、コンセプチュアルやサイトスペシフィックなど、**幅広い実験作品**で国際的に知られている。
- **吉原治郎**（創始者）、**白髪一雄**、**田中敦子**、**嶋本昭三**などが知られている。



NUKAGA GALLERY. 「ART FAIR TOKYO 2018 作品紹介 | 田中敦子」. http://www.nukaga.co.jp/art-fair-tokyo-2018-atsuko_tanaka.html (参照: 2022年8月30日)

田中敦子 《81A》

具体(3)



大阪市北区役所. 「洋画家・吉原 治良(よしはら じろう)」. <https://www.city.osaka.lg.jp/kita/page/0000000903.html> (参照: 2022年8月30日)

吉原治郎 《白い地に黒い円》



嶋本昭三オフィシャルサイト. 「嶋本昭三代表作品」. <http://www.shozo.net/works/index.html> (参照: 2022年8月30日)

嶋本昭三 《この上を歩いてください》

本日の内容

- 美術史：コンセプチュアル・アート
- 美術史：シュポール／シュルファスとアルテ・ポーヴェラ
- **美術史：アース・ワーク**
- 美術史：新表現主義
- 美術史：メディアの多様化
- 美術史：アプロプリエーション
- 美術史：マルチカルチュラルリズム
- 美術史：21世紀の美術

アース・ワーク

- 1960年代末のアメリカで自然を直接の制作素材とする **アース・ワーク**（**ランド・アート**）が発達した。
- 閉ざされたギャラリーや限られた都市空間から解放されたいという欲求や商業主義への反発から、芸術家の制作の舞台は**広大な大地へと移り、大地に人の痕跡を残すことを作品とした。**
- その性質から作品はサイトスペシフィックなものであり、通常写真や映像によって鑑賞・収蔵される。



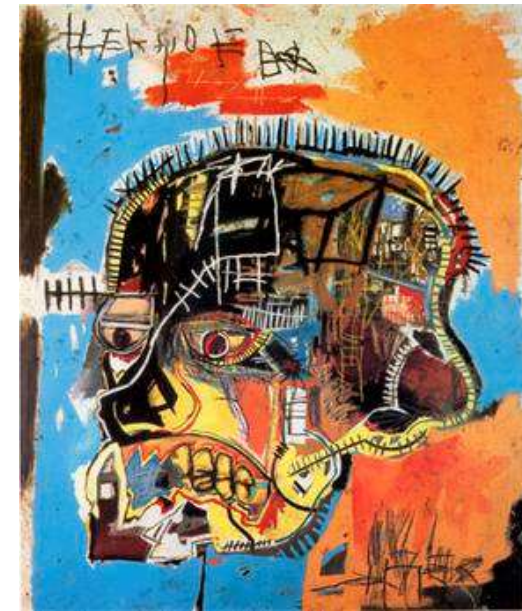
ロバート・スミッソン 《スパイラル・ジェッティ》

本日の内容

- 美術史：コンセプチュアル・アート
- 美術史：シュポール／シュルファスとアルテ・ポーヴェラ
- 美術史：アース・ワーク
- **美術史：新表現主義**
- 美術史：メディアの多様化
- 美術史：アプロプリエーション
- 美術史：マルチカルチュラルリズム
- 美術史：21世紀の美術

新表現主義(3)

- ミニマル・アートやコンセプチュアル・アートの影響により、70年代前半までの絵画を支配していたのは禁欲的な絵画であった。これに反発するように、70年代末から80年代にかけて、はじめはヨーロッパで、その後アメリカでも**具象的表現が復権した**。
- 地域によって**ニュー・ペインティング**（イギリス）や**バッド・ペインティング**（アメリカ）などと呼ばれるが、標準的・包括的な呼称はドイツの**新表現主義**（**ネオ・エクスプレッションismus**）である。



Fair use, <https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=12426299>

バスキア 《Untitled (Skull)》

新表現主義(2)

- この潮流の作家はドイツ表現主義などから影響を受け、**人体などの視覚可能な対象を鮮やかな激しい筆致で感情的に表現した。**
- **アンゼルクム・キーファー**（ドイツ）、**ジャン・ミッシェル・バスキア**（アメリカ）、**フランチェスコ・クレメンテ**、**サンドロ・キア**（イタリア）などが有名である。



Fair use, <https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=11854256>

キーファー 《Grane》

新表現主義(3)



FRANCESCO CLEMENTE. 「Priapea 1980 Fresco 78 3/4 x 125 13/16 in 200 x 319.5 cm」. <http://www.francescoclemente.net/1980s/1.html#> (参照: 2022年8月31日)

クレメンテ 《Priapea》



Sandro Chia. 「Paintings 80's」. https://web.archive.org/web/20170409131226/http://www.sandrochia.com/paintings-1980_131 (参照: 2022年8月31日)

キア 《Incident at the Cafe Tintoretto》

グラフィティ(1)

- 前述したバスキアは、70年代に生まれた**ヒップホップ文化**の影響を色濃く受けていた。ヒップホップの4要素としてDJ、ブレイクダンス、グラフィティ、ラップがあるが、**グラフィティ**出身の現代美術作家も多い。
- 同時代的にはバスキアのほか**ケー・ス・ヘリング**が有名で、現代では**バンクシー**や**バリー・マッギー**、**大山エンリコイサム**などが知られている。



By Guglielmo Giambartolomei - Own work, CC BY-SA 4.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=89230496>

ヘリング 《Tuttomondo (英: All World)》

グラフィティ(2)



By FruitMonkey - Own work, CC BY-SA 4.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=75290349>

バンクシー 《Season's Greetings》



By Sewperman - Own work, CC BY-SA 3.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=14889696>

バリー・マッギーの壁画

グラフィティ(3)



大山エンリコイサム 《FFIGURATI #184》

Enrico Isamu Oyama . 「FFIGURATI #184」 .
https://enricoisamuoyama.net/ffigurati_184 (参照:
2022年8月31日)

資本主義リアリズム(1)

- ドイツの具象絵画の運動として、63年に成立し、90年代ほどまで続いた**資本主義リアリズム**がある。
- **ゲルハルト・リヒター**、**ジグマー・ル・ポルケ**、**コンラート・リューク**の3人が掲げたこの運動はアメリカのポップアートに影響を受けたもので、**伸長する消費社会とメディアの飽和した社会**を戦略的に描いた。

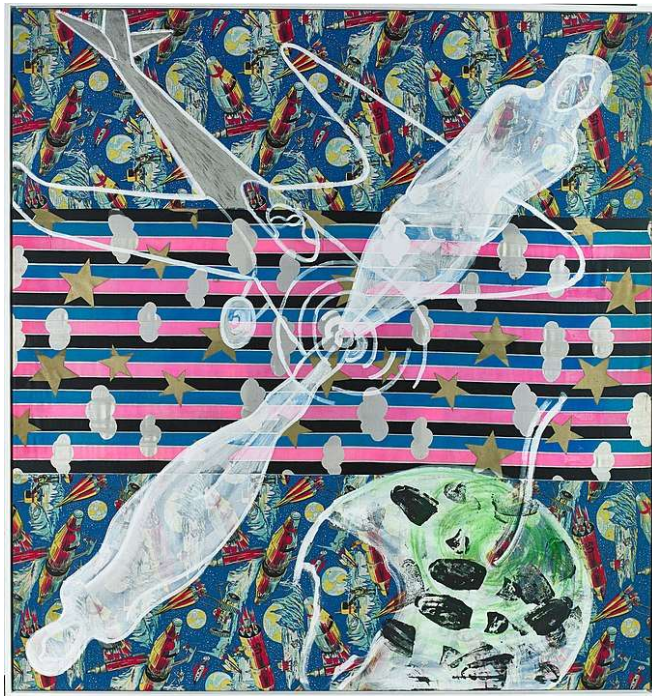


Gerhard Richter 2014, Lesende.GERHARD RICHTER, accessed 3 September 2022, <<https://www.gerhard-richter.com/en/art/paintings/photo-paintings/women-27/reader-8054/?&categoryid=27&p=2&sp=32>>

リヒター

《Lesende (Reader)》

資本主義リアリズム(2)



By das Templer-Museum Trésor des Templiers - Own work, CC BY-SA 4.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=70743271>

ポルケ 《Propellerfrau》



GREENE NAFTALI GALLERY. 「Konrad Lueg」 . <https://www.greenenaftaligallery.com/artists/konrad-lueg> (参照：2022年9月3日)

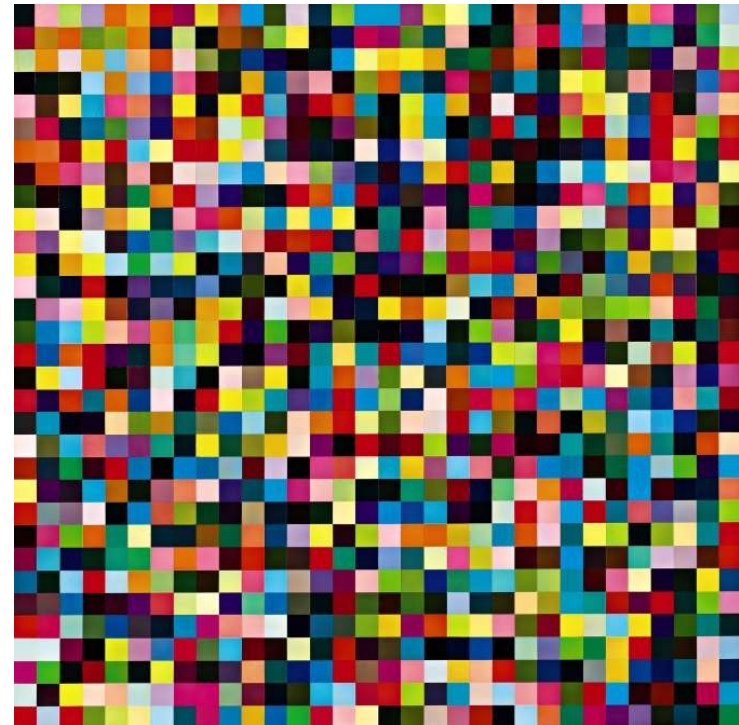
リューク 《Untitled (Gemusterte Plastikfolie, Rosen)》

資本主義リアリズム(3)



Gerhard Richter 2014, Birkenau, GERHARD RICHTER, accessed 4 August 2022, <<https://www.gerhard-richter.com/en/art/paintings/abstracts/abstracts-2005-onwards-69/birkenau-17971/?&categoryid=69&p=4&sp=32>>

リヒター 《ビルケナウ》



Gerhard Richter 2014, 1024 Farben. GERHARD RICHTER, accessed 3 September 2022, <<https://www.gerhard-richter.com/en/art/paintings/abstracts/colour-charts-12/1024-colours-6083/?&categoryid=12&p=2&sp=32>>

リヒター 《1024 Farben (1024 Colours)》

本日の内容

- 美術史：コンセプチュアル・アート
- 美術史：シュポール／シュルファスとアルテ・ポーヴェラ
- 美術史：アース・ワーク
- 美術史：新表現主義
- **美術史：メディアの多様化**
- 美術史：アプロプリエーション
- 美術史：マルチカルチュラルリズム
- 美術史：21世紀の美術

メディアの多様化

- 70年代以降はビデオ、写真、パフォーマンス、インスタレーションなど、美術のメディア（表現媒体）の多様化がさらに進んだ。
- ここでは、**ビデオ・アート**の象徴的存在である**ナム・ジュン・パイク**をはじめ、新奇な表現を行った様々なアーティストについて触れる。

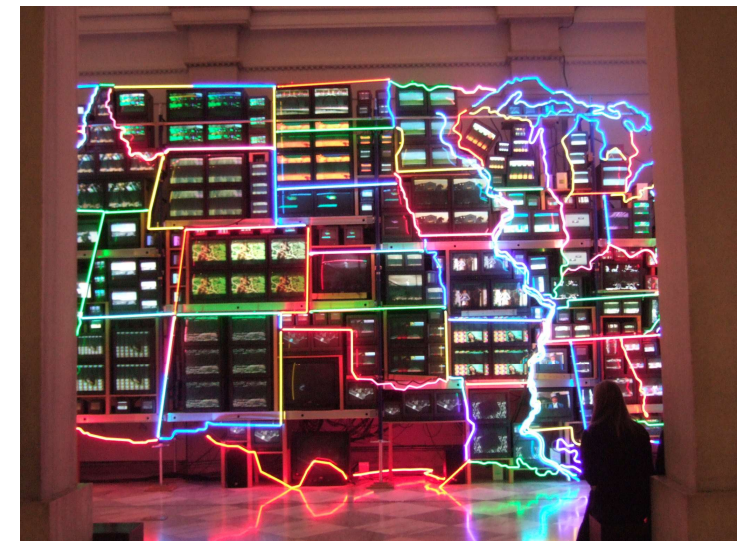


CC BY-SA 3.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=305777>

パイク 《Pre-Bell-Man》

ビデオ・アート

- 映像機器を用いて映像と音声を扱う**ビデオ・アート**は60年代に始まり、機材が低価格化した80年代に制作者が急増した。
- **ナム・ジュン・パイク**が開拓者であり、最も代表的な作家である。彼は**テレビなどを用いたインスタレーション**を行った。
- また、90年代アメリカを代表するの作家である**マシュー・バーニー**は、映像やそれを元にした彫刻などで知られている。



Libjbr - 投稿者自身による著作物, CC 表示-継承 3.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=15964576>
による

パイク

《Electronic Superhighway: Continental U.S., Alaska, Hawaii》

マリナ・アブラモヴィッチ

- **マリナ・アブラモヴィッチ**は自身の肉体に暴力を加える過激なパフォーマンスを行い、社会・政治的問題を提起した。
- 自らを「もの」とし、鞭やハサミ、銃を含む72個の道具を自らに対して使わせる『**リズム0**』や、（2010年と最近だが）合計700時間以上も椅子に座りつづけ、入れ替わる観客と見つめあう『**The Artist Is Present**』などのパフォーマンスがある。



アブラモヴィッチ 《The Artist Is Present》

イリヤ・カバコフ

- ウクライナ出身の**イリヤ・カバコフ**は、50年代から80年代までのソ連で非公式の芸術活動を行った。
- 彼は絵画やインスタレーション、文章など様々な表現を行い、**日常の事物をシンプルに提示すること**で、**ソビエト体制下の抑圧の記憶を個人史**という形で表した。

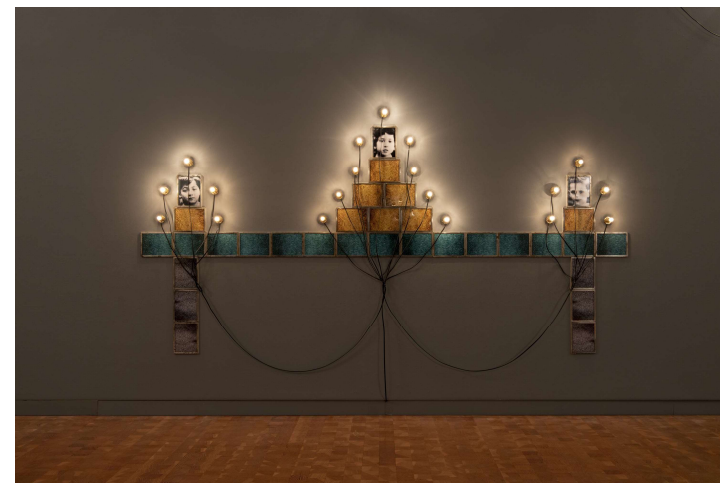


越後妻有 大地の芸術祭 2022「手をたずさえる塔」. <https://www.echigo-tsumari.jp/art/artwork/the-monument-to-tolerance/> (参照：2022年9月3日)

カバコフ 《手をたずさえる塔》

クリスチャン・ボルタンスキー

- ユダヤ系フランス人芸術家の**クリスチャン・ボルタンスキー**は幼少期に家族からユダヤ人弾圧についての話を聞かされたことが影響し、**生と死、個人の記憶や忘却、存在と不在**をテーマとした、ホロコーストを想起させるような作品を制作した。
- 代表作は『**モニュメント**』シリーズである。この作品は電球と金属のフレーム、白黒の顔写真を用いたインスタレーションで、宗教的な記念碑的空間を作り出した。



【GINZA】東京発信の最新ファッション&カルチャー情報「現代のモニュメントから、誰かの記憶を手繰りよせる。クリスチャン・ボルタンスキー展」.
<https://ginzomag.com/culture/christianboltanski/> (参照：2022年9月3日)

ボルタンスキー 《モニュメント》

本日の内容

- 美術史：コンセプチュアル・アート
- 美術史：シュポール／シュルファスとアルテ・ポーヴェラ
- 美術史：アース・ワーク
- 美術史：新表現主義
- 美術史：メディアの多様化
- **美術史：アプロプリエーション**
- 美術史：マルチカルチュラルリズム
- 美術史：21世紀の美術

アプロプリエーション(1)

- 80年代から**アプロプリエーション**（**流用、盗用**）と呼ばれる手法が用いられるようになった。
- この手法はすでに流通している写真や広告などを「引用」の範疇を超えて**作品に取り込み、文脈を書き換え再提出する**というもので、これにより記号的イメージを増殖させ、オリジナルの概念を問うた。
- ネオ・ポップとThe Picture Generation（訳不明）の潮流がある。



ジェフ・クーンズ 《Rabbit》

アプロプリエーション(2)

- 以下の作家が有名。
- 1980s (シミュレーショニズムとも呼ばれる)
 1. **シンディ・シャーマン** (様々なキャラクターに扮した自分を被写体としたセルフ・ポートレート)
 2. **バーバラ・クルーガー** (白黒写真と宣言的キャプションのカラージュ)
 3. **リチャード・プリンス** (タバコの広告などアメリカ的理想の再撮影)
 4. **ジェフ・クーンズ** (ウサギや犬などの玩具をモチーフにしたステンレスの彫刻)
 5. **シェリー・レヴィーン** (写真の巨匠の作品を撮影し、これをそのまま作品としたほか、デュシャン『泉』をブロンズで模倣した)

アプロプリエーション(3)



By Cindy Sherman - <http://www.christies.com/lotfinder/lot/cindy-sherman-untitled-96-5559186-details.aspx>, Fair use, <https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=43686616>

シンディ・シャーマン 《無題 # 153》



By Cindy Sherman - <http://www.christies.com/lotfinder/lot/cindy-sherman-untitled-96-5559186-details.aspx>, Fair use, <https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=42180304>

シンディ・シャーマン 《無題 # 96》

アプロプリエーション(4)



RICHARD PRINCE 「COWBOYS」
<http://www.richardprince.com/photographs/cowboys/#/detail/1/> (参照：
2022年9月3日)

リチャード・プリンス 《無題 (カウボーイ)》



THE BROAD 「Untitled (Your body is a battleground)」
<https://www.thebroad.org/art/barbara-kruger/untitled-your-body-battleground> (参照：2022年9月3日)

バーバラ・クルーガー 《無題》

アプロプリエーション(5)



By Original work: Sherrie Levine
Depiction: 19h00s - Own work, Fair use,
<https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=71330025>

シェリー・レヴィーン
《After Walker Evans: 4》



By Hesperian Nguyen - Own work, CC BY-SA 4.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=93141718>

シェリー・レヴィーン
《Fountain (Buddha)》

本日のまとめ(1)

- 60年代後半に**コンセプチュアル・アート**が興り、美術作品の観念性は極地に達した。極めて精緻な**スーパーリアリズム**もこの流れを受けたものである。
- **シュポール／シュルファス**は絵画を様式から解放し、**アルテ・ポーヴェラ**や**もの派**は素材を素材のまま提示した。
- 広大な大地に作品を描く**アース・ワーク**が作られ、作品は必ずしも美術館やギャラリーに留まるものではなくなった。



By Tony Godfrey, Conceptual Art, London: 1998, Fair use,
<https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=6981637>

コース 《1つおよび3つの椅子》

本日のまとめ(2)

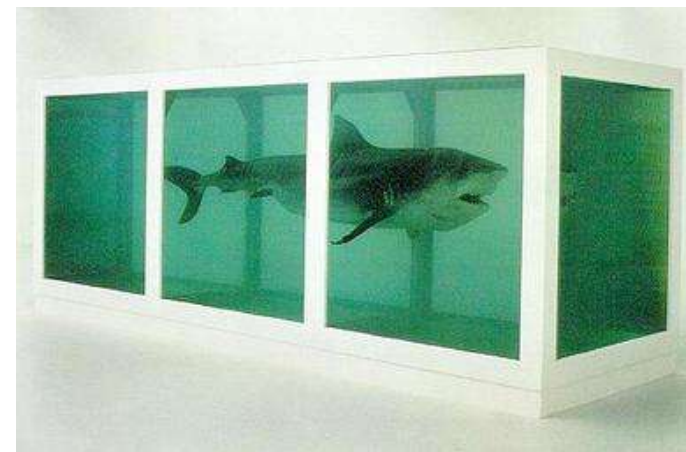
- 禁欲的な潮流への反発から**新表現主義**の運動が起こり、具象絵画が再び注目を集めた。**グラフィティ**が表現として注目され始めたのもこの頃である。
- 80年代から**アプロプリエーション**の手法が使われるようになり、イメージを「盗用」することによりコンテクストをかき乱した。



ジェフ・クーンズ 《Rabbit》

次回の内容

- 次回は**マルチカルチャリズム**など、現代における美術について扱います。
- 時代が進むにつれて多様性への理解が進み、未だ完全にはいかにせよ、アジア・アフリカの作家や女性作家の地位が認められるようになっていく。これにより、必ずしも西洋的・男性的文脈に依存しない多様な表現が生まれることとなる。
- 関連ワード
 1. ハースト 《生者の心における死の物理的不可能性》



By bloggers.it April 6, 2006, Fair use,
<https://en.wikipedia.org/w/index.php?curid=4651381>

ハースト 《生者の心における死の物理的不可能性》